

# 支援機器活用セミナー in 札幌

～できてる？「アセスメント」& できる！「視覚支援」でコミュニケーション～

NPO 法人 Rumah kita

〒063-0052 北海道札幌市西区宮の沢2条1丁目1-30-109

## 助成事業の概要

昨年、当法人は札幌市内にて視線入力をテーマとした研修会を開催したことで、地域の重心児者に関わる福祉・教育関係者の支援機器（= Assistive Technology 以下 AT）活用についての理解が深まり、療育に取り入れる事業所が増加しました。一方で、AT 機器を導入したものの、その後個別に合わせた支援がうまく進められずに悩んでしまう支援者からの相談も増えてきました。これらの相談内容からは、せっかくの AT 機器が活用されず、結果として障害児者の学習や活動の機会が奪われてしまうことが懸念されます。

このことから、障害児者に関わるあらゆる領域・立場の方々向けに、AT を活用しながらコミュニケーションを取るための見立てや方法について学ぶ機会と、事例を通して支援・学習・療育の進め方を互いに検討していくための研修会を企画開催しました。

### 【実施日】

1 回目＜会場開催＞2023 年 7 月 23 日（日）  
＜録画配信＞7 月 29 日～7 月 31 日 / 8 月 10 日～8 月 14 日

2 回目＜フォローアップセミナー ZOOM 開催＞  
10 月 29 日（日）

＜録画配信＞11 月 6 日～11 月 26 日

### 【会場】

1 回目・札幌市立北翔支援学校 / 後日視聴

2 回目・オンライン開催 / 後日視聴

【講師】青木高光氏(国立特別支援教育総合研究所・特任研究員)

【内容】1 回目・午前の部・視覚支援はなぜ必要か？  
/ 午後の部・障害の重い子のコミュニケーション支援

2 回目・フォローアップセミナー / 講師と参加者による事例検討

## 事業の成果

1 回目であるセミナー会場では、午前・午後を通して青木氏より、視覚支援を中心としたコミュニケーションの具体的な方法や、肢体不自由や重度の知的障害の子どもを中心としたアセスメントの話題、AT を使う上で支援者が留意していくべき視点などについてお話をいただきました。当日は重心児者当事者家族、児童発達支援・放課後等デイサービス等の福祉施設スタッフや管理者、特別支援学校教員、看護師、セラピスト等、様々な立場の方に参加いただくことができました。直接対面による参加者は 32 名で、熱心にメモをとりながら講師の話に聞き入る様子が見られました。また、当日の様子を録画し、後日動画視聴を可能としたことで、北海道外からも視聴の申し込みをいただき、全体で 77 名の方々に参加いただく事ができました。

2 回目のフォローアップセミナーでは、1 回目のセミナーを踏まえ、実際に支援している場面での困りごとや内容について発表いただき、青木氏をはじめとした参加者の方々と意見交換する目的で開催しました。1 回目のセミナーから参加者人数は大幅に減ったものの、当事者の母と支援学校教員より支援事例の提供をいただき、それぞれの

立場から次のステップへの進め方や新たな視点の捉え方など、青木氏によるアドバイスをいただきながら意見交換を行うことができました。

今回のセミナーでは、視覚支援やアセスメントの必要性や可能性を感じながらも、なかなか日々の生活や学習・療育場面で取り入れることへの迷いや活用方法について疑問点を多く感じている方や、さらなる視座を深めたいという方に参加いただくことができました。さらには、1度きりの受身的なセミナー参加で終了するのではなく、「フォローアップセミナー」として、障害児者に関わる保護者・支援者、教師が日頃の実践を発表し、新たな視点を見出す機会を設けたことで、お互いに刺激を受け、その後の支援を深めることができるようになって考えています。

## 成果の広報・公表

セミナー終了後に行ったアンケートでは「パニックの記録を取り、対策を考えてみようと思う」「日常の中でアセスメントを行なっていきたい」「子どもの様子を思い浮かべると、そういうことだったのか・・・と気づくことがあった」という声や、「これまでカードの存在は知っていたが、実際に使ったことはなかった。今後の支援に役立てていきたい」「ASD や場面緘黙のある子どもに言葉での理解が難しいことがあるので、視覚支援カードの実践をしてみたい」という声をいただきました。特に会場参加された方々はセミナー終了後も活発に青木氏や参加者同士で交流を行っていた様子が見られ、オンライン配信のみでは得られない情報や意見交換が行えている様子でした。これらのアンケート結果は研修終了後講師へ直接お伝えするとともに、HP 上でも公開させて頂きました。全体的に参加者の満足度は高く、研修で得た知見や内容を次の支援に繋げていただける機会ができたと考えております。

## 今後の展開

障害児者の支援や学習場面でも視覚支援が取り入れられることで、自分のスケジュールが理解できる場面や周囲に自分の気持ちを伝えることに繋がります。また、重症心身障害児者のアセスメント方法を知り、AT を活用することで、客観的にできている事を整理し、コミュニケーションの糸口を見出すことが増えていきます。さらに、様々な立場や職種を超えて支援方法について活発に意見交換することで、その後の教育や支援の内容を深めることに繋がると考えています。しかし、当事者の保護者や福祉関係者にとって、AT 活用や支援方法を学ぶことのできる機会は、北海道ではまだまだ少ないのが現状です。

今後も当法人では、障害児者の教育や支援の先駆けとなっている講師をお招きし、セミナーやイベントを地域で開催していくことで、教育や福祉、医療など当事者に関わる者同士が楽しみながら学び合うネットワークづくりや、家族や支援者の「自分たちも、チャレンジしてみよう」という前向きな気持ちを支えることにつながると考え、引き続き活動を続けていきます。